

0歳児

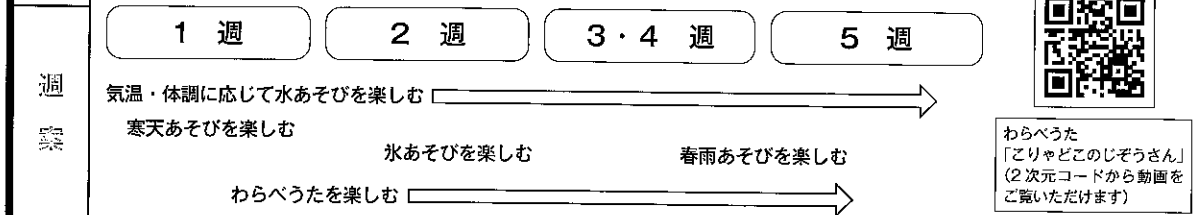
行事	<ul style="list-style-type: none"> 誕生会 避難訓練 	クワンスのようす	<ul style="list-style-type: none"> 暑さによる睡眠不足等から2度寝をする子どももいた。また、体調を崩す子どもが複数いた。 	(美濃・ねらい・教育)	<ul style="list-style-type: none"> 個々の状態に合わせて生活リズムを整えている。 特定の保育者のそばで、安心して過ごす。 沐浴や水あそびをして、心地よさを味わう。
----	---	----------	--	-------------	---

保育者のかかわり

○ミルクを飲んだり、離乳食を食べたりして、安心して入眠する。
△一人ひとりが気持ちよく食べ眠れるように、個別の体調や生活リズムを把握し、ゆったりと声をかけたりまなざしを向けたりして、かかわっていく。

○水の感触を味わい、楽しむ。
△水あそびでは、水温を適切に調節する。また、前月に引き続き興味や発達に合った玩具を準備し、子どもの気持ちが動いたり楽しさに気づいたりしたときのサインにこたえ、「気持ちいいね」「楽しいね」などのことばをそえて対応していく。

○育てたい内容 △保育者のかかわり



子どもの姿 (前月末)	子どもの育ち (ねらい・内容)	保育者のかかわり (環境・かかわり・配慮)	反省・評価
A児 (8か月) ○沐浴時、気持ちよさそうにほほ笑み、手や足を動かしていた。 ○特定の保育者が他児をひざのせていると「ふえーん」と泣くと、もうひとりの担任に抱いてもらおうとご機嫌になる。	○ぬるま湯や水に触れて感触を楽しんだり、心地よさを感じる。 ○思いを表現することで、特定の保育者やクラス担任に抱かれたり、そばでかかわってもらい安心する。	○沐浴のほかに、ときには、ブルーシートで水たまりを作り、心地よい水温や好きな玩具で楽しめるようにする。 ○特定の保育者や他児、クラスの担任などがそばでふれあいあそびをしたり玩具であそんだりしてかかわりを深め、楽しむことで安心感の輪が広がり、落ち着いて過ごせるようになる。	○水に触れて気持ちよいと思えるように水たまりを作り、水車を用意すると、手で水面をたたいて、水車がクルクル回るようすをじっくり見ては、自分で水をつかんで気持ちよさそうにしていた。来月も、砂あそびや感触あそびなどで、感じることを大切に、十分楽しみたい。
B児 (12か月) ○水あそびを十分に楽しんだあとは、給食中に眠くなり、泣きだす。 ○春雨の感触あそびでは、自分からは触ろうとせず、他児のようすをじっと見つめる。ときどき、「あっ」「おー」と声をあげて、保育者と目が合うと笑う。	○水あそびの前後によるすを見ながら10～15分ほど眠り、リズムを整え、機嫌よく給食を食べる。 ○繰り返し経験し、他児のようすを見たり保育者と一緒に触ったりするなかで、春雨の感触に触れ、楽しむ。	○眠そうなどときは短時間睡眠をとり、すっきりとした状態で食事を楽しめるように配慮する。また、その日の家庭での睡眠時間も考慮し、1日の生活リズムを整えていく。 ○つかんだり入れ替えたりできる量を器に用意して、興味をもてるようにし、保育者が手にのせるなどして一緒に楽しむことで、やってみようと思えるきっかけづくりをする。	○感触あそびは、繰り返し楽しむ機会をつくることで、少しずつ自分から素材に触れたり、興奮気味に声をあげたり、意欲的に参加する姿が見られるようになった。今後も継続して行なうなかで、新しいものへの不安感を興味や関心、楽しみへと変えていきたい。
C児 (1歳3か月) ○手づかみで食べていたが、スプーンを持って口に運ぼうとする姿が増えてきた。 ○プールの中でハイハイをして移動したり、水に浸かって座り、水面をたたいたりする。	○こぼしながらもスプーンですくう等、口へ運ぶことに興味をもち、食べようとする。 ○プールの中に入り、自分の動きに合わせて水が波打つ感覚や、水の抵抗を感じて楽しむ。	○スプーンですくうやすい形状のおかずを用意して見守り、すくうにくいときは手を添え、「おいしいね」と達成感を味わえるようにする。 ○プール内の安全に気をつけながら「お水、気持ちいいね」等ことばをかけ、一緒に水を波立たせたり、水面をバシャバシャとたたいたりして、さまざまな水の感触を楽しめるようにする。	○水あそびでは、だんだんと動きが活発になってきたので、ようすを見ながら1歳児のプールに入らせてもらおうこともあった。たくさんからだを動かしてあそんだことで、午睡では継続して眠る時間が長くなってきた。翌月も満足できるまで運動できるような活動を取り入れていきたい。

0歳児

食育・健康・安全への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 暑くなるので、離乳食の配膳時間や衛生面に注意をする。 夏の病気(ヘルパンギーナ、手足口病など)やとびひ・あせもなどになりやすい時期なので、視診をしっかりと行う。玩具等の消毒も入念に行う。 水あそびは安全面に配慮し、気温に合わせて水温を調整する。また、子どもの体調にも留意する。 室温をこまめに調整し、適温を保てるようにする。 	職員間の連携	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠不足からの朝寝や水あそびの有無など、子どものようすと姿を伝え合い、子どもの1日の過ごし方(あそび方・生活の流れ)を保育者間で話し合い、連携していく。 職員が研修・休暇などの夏期体制になるため、できるだけ子どもが不安にならないように、引き継ぎをしっかりと行い、心地よく過ごせるようにする。
--------------	---	--------	--

保育の展開

3つの視点

- ② 健やかに伸び伸びと育つ【健康】
- ① 身近な人と気持ちが通じ合う【人間関係】
- ③ 身近なものに関わり感性が育つ【表現】

5領域

- 【健康】
- 【人間関係】
- 【言葉】
- 【環境】
- 【表現】

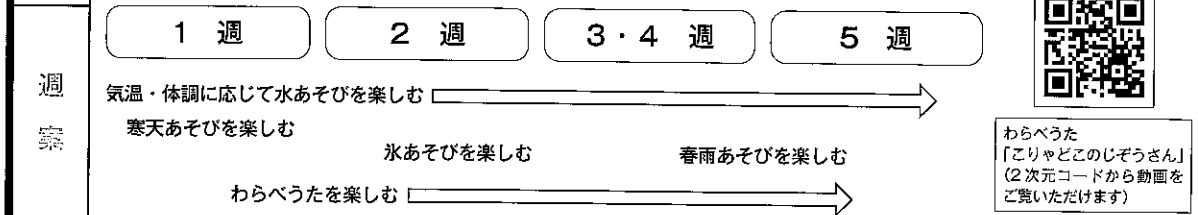
行事	<ul style="list-style-type: none"> 誕生会 避難訓練 	クラスのようす	<ul style="list-style-type: none"> 暑さによる睡眠不足等から2度寝をする子どももいた。また、体調を崩す子どもが複数いた。 	(養護・教育)	<ul style="list-style-type: none"> 個々の状態に合わせて生活リズムを整えていく。 特定の保育者のそばで、安心して過ごす。 沐浴や水あそびをして、心地よさを味わう。
----	---	---------	--	---------	---

保育者のかかわり

○育てたい内容 △保育者のかかわり

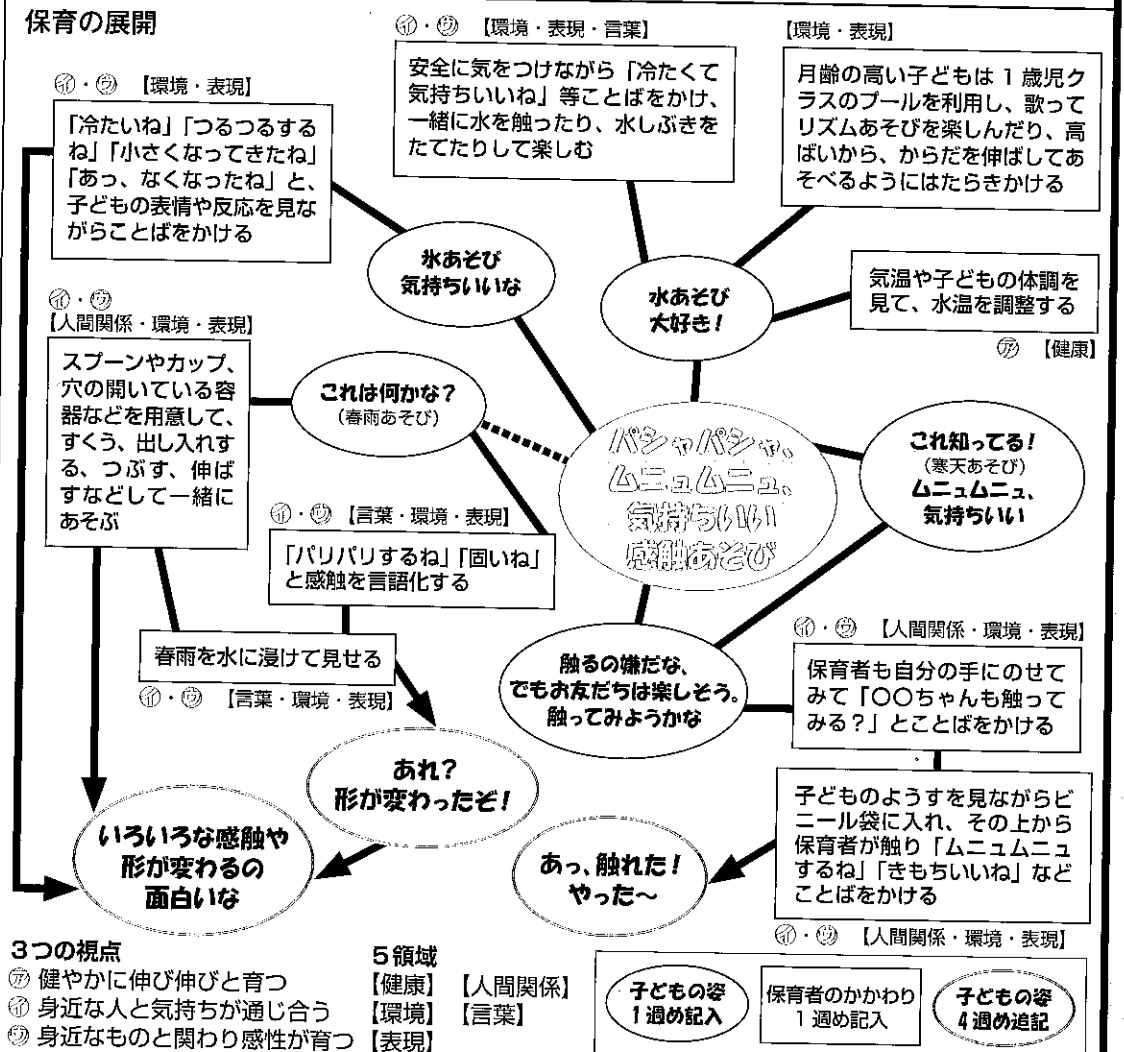
○ミルクを飲んだり、離乳食を食べたりして、安心して入眠する。
△一人ひとりが気持ちよく食べ眠れるように、個別の体調や生活リズムを把握し、ゆったりと声をかけたりまなざしを向けたりして、かかわっていく。

○水の感触を味わい、楽しむ。
△水あそびでは、水温を適切に調節する。また、前月に引き続き興味や発達に合った玩具を準備し、子どもの気持ちの動いたり楽しさに気づいたりしたときのサインにこたえ、「気持ちいいね」「楽しいね」などのことばをそえて対応していく。



	子どもの姿 (前月末)	子どもの育ち (ねらい・内容)	保育者のかかわり (環境・かかわり・配慮)	反省・評価
A児 (8か月)	<ul style="list-style-type: none"> 沐浴時、気持ちよさそうにほほえみ、手や足を動かしていた。 特定の保育者が他児をひざにのせていると「ふえーん」と泣くが、もうひとりの担任に抱いてもらうとご機嫌になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ぬるま湯や水に触れて感触を楽しんだり、心地よさを感じる。 思いを表現することで、特定の保育者やクラス担任に抱かれたり、そばでかかわってもらい安心する。 	<ul style="list-style-type: none"> 沐浴のほかに、ときには、ブルーシートで水たまりを作り、心地よい水温や好きな玩具で楽しめるようにする。 特定の保育者や他児、クラスの担任などがそばでふれあいあそびをしたり玩具であそんだりしてかかわりを深め、楽しむことで安心感の輪が広がり、落ち着いて過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 水に触れて気持ちよと思えるように水たまりを作り、水車を用意して、手で水面をたたいて、水車がクルクル回るようすをじっくりと見ては、自分で水をつかんで気持ちよさそうにしていた。来月も、砂あそびや感触あそびなどで、感じることを大切に、十分楽しみたい。
B児 (12か月)	<ul style="list-style-type: none"> 水あそびを十分に楽しんだあとは、給食中に眠くなり、泣きだす。 春雨の感触あそびでは、自分からは触ろうとせず、他児のようすをじっと見つめる。ときどき、「あっ」「おー」と声をあげて、保育者と目が合うと笑う。 	<ul style="list-style-type: none"> 水あそびの前後によるようすを見ながら10～15分ほど眠り、リズムを整え、機嫌よく給食を食べる。 繰り返し経験し、他児のようすを見たり保育者と一緒に触ったりするなかで、春雨の感触に触れ、楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 眠そうなときは短時間睡眠をとり、すっきりとした状態で食事を楽しめるように配慮する。また、その日の家庭での睡眠時間も考慮し、1日の生活リズムを整えていく。 つかんだり入れ替えたりできる量を器に用意して、興味をもてるようにし、保育者が手にのせるなどして一緒に楽しむことで、やってみたいと思えるきっかけづくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 感触あそびは、繰り返し楽しむ機会をつくることで、少しずつ自分から素材に触れたり、興奮気味に声をあげたり、意欲的に参加する姿が見られるようになった。今後も継続して行うなかで、新しいものへの不安感を興味や関心、楽しみへと変えていきたい。
C児 (1歳3か月)	<ul style="list-style-type: none"> 手づかみで食べていたが、スプーンを持って口に運ぼうとする姿が増えてきた。 プールの中でハイハイをして移動したり、水に浸かって座り、水面をたたいたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> こぼしながらもスプーンですくう等、口へ運ぶことに興味をもち、食べようとする。 プールの中に入り、自分の動きに合わせて水が波打つ感覚や、水の抵抗を感じて楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> スプーンですくうしやすい形状のおかずを用意して見守り、すくうにときは手を添え、「おいしいね」と達成感を味わえるようにする。 プール内の安全に気をつけながら「お水、気持ちいいね」等ことばをかけ、一緒に水を波立たせたり、水面をバシャバシャとたたいたりして、さまざまな水の感触を楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 水あそびでは、だんだんと動きが活発になってきたので、ようすを見ながら1歳児のプールに入らせてもらうこともあった。たくさんからだを動かしてあそんだことで、午睡では継続して眠る時間が長くなってきた。翌日も満足できるまで運動できるような活動を取り入れていきたい。

食育・健康・保育者の健康・職員の連携	<ul style="list-style-type: none"> 暑くなるので、離乳食の配膳時間や衛生面に注意をする。 夏の病気(ヘルパンギーナ、手足口病など)やとびひ・あせもなどになりやすい時期なので、視診をしっかりと行う。玩具等の消毒も念に行う。 水あそびは安全面に配慮し、気温に合わせて水温を調整する。また、子どもの体調にも留意する。 室温をこまめに調整し、適温を保てるようにする。 	職員間の連携	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠不足からの朝寝や水あそびの有無など、子どものようすと姿を伝え合い、子どもの1日の過ごし方(あそび方・生活の流れ)を保育者間で話し合い、連携していく。 職員が研修・休暇などの夏期体制になるため、できるだけ子どもが不安にならないように、引き継ぎをしっかりと行い、心地よく過ごせるようにする。
--------------------	--	--------	--



家庭との連携

- 食欲が落ちる、睡眠不足など、生活リズムが崩れがちになるので、家庭でのようすを共有し、体調に気をつけていく。
- 受け入れ時には「〇〇ちゃん、おはよう」等と声をかけながら視診を行い、傷があった場合などは保護者にたずね、共通理解をする。また、家でのケガは経緯と状態をしっかりと聞き取り、その後のようすを見守り、必要に応じて、その日のようすをお迎え時に伝える。
- 毎日の保護者との連絡帳で家庭のようすを聞くことをきっかけに、悩んでいることをキャッチして、朝夕に保育の話と共にその悩みについて一緒に考えていく。

ふりかえり

- 長時間保育の子どもの中には、職員が手薄になる時間帯に夕寝をする子どももいる。他クラスとも連携をとりながら進めていった。
- 水あそびや感触あそびを繰り返し存分に行い、応答的關係のなかであそぶことで、表情や表現が豊かになっていった。今後も、共感しながら子どもの「相手に伝えたい思い」をしっかりと受けとめ、保育をしていきたい。